

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム シュアー		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100445-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた介護を提供している。積極的に外出することに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念の一つである「ゆっくり・楽しく・一緒に」に則し、職員の多忙感や焦る気持ちが利用者へ伝われば、利用者の行動を急かしたり、焦らせることにつながる、という意識を持ち、職員にゆっくり落ち着いて職務に当たることを指導している。管理者は、利用者を中心とした生活環境の整備、共に楽しく過ごすための取り組みはもちろんの事、職員の精神状態にも気を配っている。

日常的な散歩や外気浴など、日常的に戸外へ出る機会を多く作っている。個別支援では、本人の若かりし頃のエピソードをきっかけに、高校野球の地方大会に応援に出かけたり、少人数外出では、薔薇が有名な公園の年間パスポートを購入し、日常を離れる外出を楽しんだり、利用者が楽しめる外出支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の通り、業務に追われることなく、ゆっくり利用者と楽しく過ごせるように努めています。	職員の意識喚起を目的に、フロアにホーム理念を掲示している。理念の一つである「ゆっくり・楽しく・一緒に」に即し、日常業務をゆったりと行えるような環境整備に努めている。職員の多忙感が伝わり、利用者の行動を急かすことがないように意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、施設外の散歩や外出にて、地域の方々と交流する機会があります。	現住所にホームが移転し20年が経過する中で、地域とは、コロナ禍を挟んでも変わらない交流がある。地域の高齢化の進行に伴い、災害時や日常生活に対し、ホームの役割を模索、検討している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々や事業所の方に参加していただき、様々な方向からの意見を九州し、より良いサービスが提供できるよう努めています。	今年度の会議は全て対面で開催し、地域住民、障害福祉サービス事業者、市役所、地域包括支援センターが参加している。ホームの運営報告の他、地域の高齢者情報や地域防災等について、行政を交えた意見交換を行っている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や、市役所へ用事があった際に、日ごろのケアについての相談や疑問を伝えたり、協力関係を築いています。	市役所担当課とは、書類提出、ホーム運営にかかわる相談・報告などで適切に連携を図っている。地域の福祉関係者が集まる会議は、研修や他事業所との情報交換の場となっている。市役所担当者の運営推進会議参加があり、ホームの実情理解を進めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について研修を行い、理解した上で利用者様と接している。利用者様の安全に配慮して玄関は施錠しています。	身体拘束を原則行わない方針を基本とし、限定的な場面で、やむを得ないと判断した場合は、家族の同意を得て実施している。職員は、研修の他に、委員会にも参加し、高い意識で身体拘束をしない支援を実践している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待についての研修を行ない、理解した上で利用者様と接している。	虐待防止は身体拘束との関連性が強い取り組みであると考え、ロールプレイや実体験を取り入れた研修で、体感に基づく理解の定着を促している。外国籍職員には、資料だけでは理解しづらい部分を口頭で分かりやすく説明し、理解を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者様がいるため、その情報を全職員で共有している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約変更時には直接説明させていただいています。不安や疑問などもその場で解決できるよう努めています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ツールを簡単にし(LINE)、利用者様の意見等はご家族に、ご家族の意見等は利用者様、全職員に周知している	家族には、面会時や電話連絡時に直接話を聞いている。内容は送りノートで共有している。全体の活動はホーム通信で報告する他に、SNSを活用し、日々の写真や連絡事項を送信する等、意見や意向を出しやすい環境を工夫している。また、家族の来所を促す目的で、排泄用品を持込制に変更している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に職員と近い関係にあり、意見や提案を直接話すことができる	毎日の朝礼やショートミーティング、日常業務の中で意見や提案を聞き取り、送りノートで意見の内容や検討後の対応をフィードバックし、共有している。個別面談は、適宜必要な時に実施し、業務内容の他、生活や働くうえで必要な配慮等についても聞いている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の家庭環境や状況を把握し、個々に合わせた勤務を作成している。無理なく長く働けるよう、職員とのコミュニケーションを大切にしている。そのため高齢職員も多い	育児、家族介護等、職員の状況を把握し、介護休暇取得を促したり、事情に配慮したシフト調整を行う等、働きやすい職場環境を整備している。外国籍職員には、社宅を提供し、日本での生活に馴染めるように、日常生活、文化の違いを踏まえてフォローしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行ない、資格情報や介護職員への意欲を高められるよう努めている	法人の資格取得支援を利用し、介護福祉士を目指したり、社会福祉協議会の実務者研修の免除制度を活用したりと、スキルアップを促している。管理者自らが学ぶ姿勢を見せ、資格取得や研修参加に取り組んでいる。	自発的なスキルアップ、目標に向かう動機付けとして、人事評価の指標、キャリアパスの活用等が一助となることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	たじみネットワーク会議や外部研修に積極的に参加し、同業者との交流ができている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろから家事手伝いをお願いし、それぞれが行える役割を果たしていただいています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活に近づけるように本人に合わせた介護を提供している。思いを伝えられない利用者様に対しては、ご家族からの意見を参考にし介護を提供している	利用者との日常の関りの中で、本人の思いを直接聞いたり、表情や様子から汲み取っている。意志表出ができる利用者は少なく、簡単に返答ができる問いかけ等を工夫し、思いを表出できるように支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にも協力していただきながら、本人らしく生活できるよう、それぞれの意見や現状を考慮し、実際に介護を提供する職員の意見も取り入れ、介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施している。職員に、気付いたことを記入するシートを配布し、モニタリング時に、現状や課題を検討している。支援内容をショートミーティングで話し合い、介護計画に反映している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等はケース記録で記録をとり、職員間でショートミーティングを行ったりして情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている	電子記録と紙媒体を併用し、利用者の日々の様子、ケアの実践を記録に残している。情報共有のため、業務日誌や記録、送りノート、ホームのSNSの確認を徹底している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に合わせた介護を提供している。本人の望みはできる限り叶えている	一般車両に乗降が困難な利用者は、外出や通院時には、ホームの福祉車両で送迎を行なう等、柔軟に対応している。また、ホームは、共用デイサービスと空室利用のショートステイの体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの馴染みの人や場所を把握し、その人に会ったり、その場所へ行ったりする機会をつくっている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご希望があればご家族や本人が選択し決めていただいている。基本的には柔軟に対応できるように施設の主治医をおすすめしています	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。24時間のオンコール、熱発時等の緊急の往診の対応もある。医療連携の訪問看護師の訪問で、利用者の健康管理の他、家族の健康相談にも対応している。また、法人代表、管理者が准看護師であり、日常的な健康管理を実施している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には直ぐに介護サマリーを送り情報共有に努めている。入院中も早期退院できるように電話でやり取りを密にしている。退院後も直ぐに対応できるように、職員間で情報共有している	利用者の入院時には、病棟看護師やソーシャルワーカーと情報共有を図り、退院に備えたホーム内の調整を行っている。平素から、医療機関との良好な関係を維持している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後起こりうる事や、重度化、終末期については、そうなる前の段階で直接話し合う機会を作っている。重度化や終末期の際には、主治医から直接ご家族に説明していただいている	入居時や利用者の状態変化時に、家族と、看取りを含めた終末期の対応を話し合っている。本人と家族の意向に沿い、看取りまでを支援する際には、必要時には医師を交えて、都度に話し合いを重ね、その後の方針を決定している。本人と家族が共に過ごす時間確保のため、家族の宿泊を受け入れている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講し、急変や事故の際に対応できるよう努めている。現場に直ぐ駆けつけれるように、代表者、管理者共にオンコール対応している		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対して色々な想定をし、職員には避難訓練や普段の会話の中で方法を伝えている。ご近所の協力も得ている	年2回の避難訓練では、通報訓練、避難経路確認を行っている。BCPを周知し、いつでも確認ができるよう設置している。食料備蓄は、嚥下機能が低下した利用者に合わせた食品を選定している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待の研修煮て、言葉遣いの研修を定期的に行っている	利用者の性格、好みに合わせた声掛けや対応に努めている。利用者の反応が一定ではない事を考慮し、全職員が、利用者一人ひとりに合わせた個別の同対応を心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話ができる利用者様に対しては、普段の会話の中から希望や思いを引き出している。会話ができない利用者様に対しては、表情や動きの中から読み取るよう努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活が送れるよう、臨機応変に対応している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット、茶碗拭きを手伝っていたき、準備や片付けに参加していただいている	調理担当者が冷蔵庫の食材を見て献立を考え、調理している。地域からの差入れの旬の野菜を取り入れた食事、利用者のリクエストメニューにも対応している。季節の行事食や誕生日等の特別食、外食等の楽しみもある。利用者とする手作りおもつも、利用者の食の楽しみの一つとなっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量などは一人ひとりに合わせて都度検討し、本人に合わせた食事形態や量を提供している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを行い、口腔内の状態を把握している	自立支援の一環で、自身で口腔ケアが行えるように、毎食後の口腔ケアをサポートしている。義歯も毎食後に洗浄し、就寝時は外して洗浄剤につけ、清潔を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導をし、トイレで排泄ができるよう促している。クローゼットで排泄をしてしまう利用者様に対し、クローゼットにポータブルトイレを設置したことで、ポータブルトイレでの排泄ができている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	臨機応変に対応している。入浴が嫌な出来事にならないように声掛けにも気を付けている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室にて仮眠をする利用者様が多くいます。室内の室温湿度チェックを行い、快適に過ごせるよう努めています		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体に合わせて、ご家族と主治医に相談をした上で服薬調整をしている	定められたホームの手順に従い、職員間でダブルチェックを行っている。利用者と名前を最終確認し、確実に内服するまでをチェックしている。薬剤情報はファイルで管理し、必要時に確認している。変更の情報は申し送りで共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品があればご家族、主治医相談に上で楽しんでいただけるよう支援しています。以前、ご家族との外食時に毎回日本酒を飲んで施設に戻る利用者様がみえました	ホームでの飲酒も可能であり、家族との外出時にお酒を楽しむ利用者もおられる。生活歴等から本人の楽しみを考え、高校時代に甲子園に出たというエピソードを聞き、岐阜県の地方大会を見学に出かけた楽しみごと支援の一例もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物と一緒にしたり、車椅子でもご家族と外出できるよう現地まで送迎をしている。日常的にドライブや散歩に出かけている	近隣の散歩、食材の買い物、気分転換のドライブ等、日常的に戸外に出る機会がある。重度化等でベッドで過ごす時間が長くなった場合も、車いすに移り、散歩をしている。少人数ずつで、イチゴ狩りや花見、外食など、外出の機会を増やしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することが難しいため所持していませんが、外出時や何かを提供する際に本人のお金よりいただいていることを伝え、使っていることを実感していただいています		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と本人が電話でやり取りができるよう、必要時に電話をお渡ししています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの空間も室温湿度に気を配り、快適に過ごせるよう努めています。心穏やかに過ごせるように職員はゆっくり業務を行うようにしている	高い天井のフロアは開放感がある。動線の安全に配慮した家具の配置を考え、その時の気分でレイアウトや座席を変える等、使用者が心身ともに過ごしやすい空間作りに努めている。昭和の懐かしい市内の様子と現在の様子を比較する写真の掲示は、利用者同士、若かりし頃の思い出話のきっかけになっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の場所や座る位置は固定せず気分に合わせて座っていただいている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好む物を置いたり、馴染みのある写真を貼ったりして、本人が心地の良いと思える空間づくりをしている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることの工夫として、クローゼットトイレにし、トイレでの排泄は難しいがクローゼットトイレでの排泄はできている利用者様がいる		